令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立双葉東小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

・国語の平均正答率はほぼ全国と同程度であり、どの内容においても一定の定着がみられます。特に「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができる」については記述式の問題でも高い定着があり、日頃からの継続した取組の成果がみられます。一方で、『書くこと』の項目では、「書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることができる」の正答率が低いです。また「漢字を文の中で正しく使うことができる」については正答率が低く、漢字を書くことに課題がみられます。

・算数の平均正答率は全国と同程度です。特に『数と計算』の項目では、「異分母の分数の加法の計算ができる」について高い定着がみられる一方で、「共通する単位分数のいくつ分かを記述ができる」については正答率が低く、抽象的な概念を理解することに課題が見られます。

・理科の平均正答率は全国よりも高く、高い定着がみられます。特に「顕微鏡を操作する」「解決するための実験の方法が適切であったか検討し表現する」についての正答率が高く、実験における知識や思考力に高い定着がみられます。一方で、『エネルギー』の項目では、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識」の正答率が低く、日常生活と学習内容のつながりに課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・よい傾向がみとめられる項目

「友達関係に満足していますか」「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「ICT 機器を活用することで友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「あなたの学級は話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法をきめていますか」について特に高い数値を示しています。

・課題となる項目

「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した」「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」については数値が低いです。発表における工夫や意識づけ、読書に対する意識に課題がみられます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語の学習では、文章を書く際に構成を考える時間を十分に確保し、定着するようにしていきます。また、書く際には習った漢字は使うように声をかけ、正しく使えるように繰り返し指導を行っていきます。
- ・理科の学習では、身近な現象や日常生活と学習内容とのつながりを明確にして、理科への関心と学びの意義を実感できるようにしていきます。
- ・算数の学習では、抽象的な概念を理解できるようにするため、数直線やグラフなどの視覚モデルを活用しながら考える活動を充実させていきます。
- ・子どもたちの表現する力を育てるために、一人一台端末を活用しながら、工夫して伝え合う活動を多く取り入れていきます。
- ・良好な友達関係を継続するために、引き続き、子どもたちが互いの良いところを認め合ったり、協力し合ったりする活動に取り組んでいきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・読書の楽しさを感じられるよう、お子さんと一緒に本を選んだり、お子さんの音読を聞いたりして励ましてあげてください。また、新聞への関心を高めるために一緒に新聞を読んであげてください。
- ・子どもたちは規則正しい生活が送れています。今後も、生活リズムを整え、規則正しい生活が送れるようお願いいたします。